

笑顔で対話

令和7年10月

羽島市教育委員会

こどもが自らの力で学校を変える ～主体性と自律を育む取組～

今、学校では、社会の変化に合わせて「教える」から「学ぶ」への転換がはかられています。その中で大切にされているのは、こども達の「主体性」です。「自分事としてとらえ、考え、行動していく」そんなこども達の素敵な姿を紹介します。

自分たちで自慢のあいさつを(堀津小)

堀津小学校では、毎月「0のつく日」に、朝のあいさつ運動を行っています。早く登校した子から校庭に並び、次に仲間に「おはようございます！」と元気な声を届けます。その列は、どんどん長くなり、全校が一つになって挨拶をすることに。この活動はこども達がアイデアを出し、運営もしています。

計画委員の6年生清水すみれさんは、「私が入学したときには、コロナ禍でいろいろなことができなかった。でも、この取組のおかげで元気になった。今度は私たちの番。自分たちで、堀津小の自慢を作っていきたい」と語ってくれました。

こども達の力で笑顔とあいさつの輪を広げ、それを学校の誇りにしていく、これからが楽しみです。



小さな力が集まれば(竹鼻中)

竹鼻中学校では、9月に有志による清掃活動が行われました。この活動は、学校をより美しくしようという生徒会の呼びかけで行われたもので、約30名の生徒が放課後に集まり、水回りや床の掃除をしました。活動に参加した3年生の萬澤穂生さんは、「一人ひとりの小さな力が集まれば、大きな変化につながります。こうしたボランティアの輪が広がっていくと嬉しいです」と話してくれました。

次回のボランティア活動は11月に予定されているそうです。自分の力で、仲間と協力して学校をよりよくしようとする意識が、さらに大きな輪となっていくことを楽しみにしています。



キッズウィークで広がり深まる こどもの笑顔と学び

羽島市教育委員会では、毎年、キッズウィーク(今年度は10月11日～15日)の期間に、こども達の可能性を広げ、磨くために、様々なイベントを行っています。今年度は、100名を超えるこども達がそれぞれの「やってみたい」を実現していました。

- ①「ドローンをプログラムして飛ばそう!!」
- ②「English Day in 羽島」
- ③ ボッチャでつながるキッズウィーク
- ④ 化石レプリカづくり



①ドローン体験



②English Day in 羽島



③ボッチャ体験



④化石レプリカづくり

イベントを終えて ～参加者の感想より～

- ・自分でプログラミングしたドローンが動いた時はとてもうれしかった。
- ・アイスを作りながら、楽しく英語を学ぶことができた。また参加したい。
- ・初めてボッチャを体験したけど、わかりやすく教えてもらえて楽しかった。
- ・化石レプリカがうまく作れて思い出になった。VRも迫力があって、いい経験ができた。

お知らせ(教育振興基本計画策定委員会)

本市では、社会の変化や市民のニーズに応えた教育を行うため、令和8年度から5年間を見通した「第3次羽島市教育振興基本計画」を策定しています。

7月22日(火)に行われた第1回委員会では、施策の柱と体系について、10月24日(金)の第2回委員会では、施策の具体的な内容や施策実施指標等について協議しました。

今後は、協議された内容について、11月下旬から12月下旬にかけてパブリックコメントを募集し、その意見を踏まえて、策定に向けた検討を進めていく予定です。

審議内容等については、羽島市のHP(<https://www.city.hashima.lg.jp>)で随時、公開していきます。



羽島市教育委員会事務局 教育政策課

〒501-6292 羽島市竹鼻町 55 番地

TEL (058) 393-4611 FAX (058) 391-0906

Email : kyoiku@city.hashima.lg.jp